

令和4年度安来市小中学校適正配置基本方針に係る説明会 実施状況について

安来市教育委員会では、令和3年度に策定した「安来市立小中学校適正配置基本方針」について、市内の学校、交流センターなどで説明会を開催するとともに、意見交換やアンケート調査を通じて、地域のみなさまのご意見やご質問を伺いました。アンケート結果と、ご質問に対する現時点の考え方などを以下にまとめました。

【説明会の実施状況】

●実施時期：令和4年6月～令和5年3月

●実施状況：

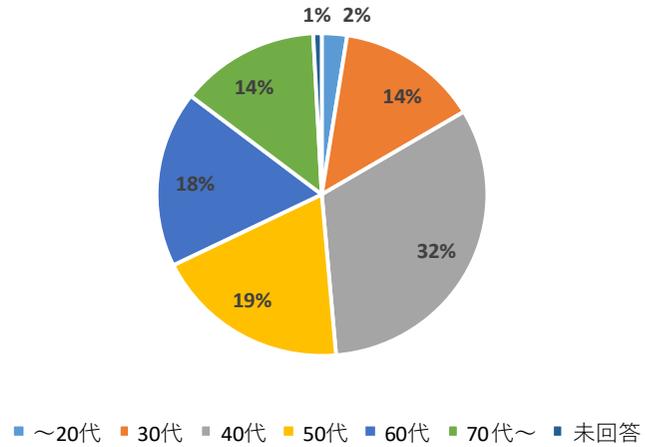
| 区分 | 会場数 | 参加者数(延べ) |
|--------------|-----|----------|
| ①保護者、教職員 | 25 | 481 |
| ②地域団体、交流センター | 24 | 520 |
| ③その他の団体等 | 3 | 161 |
| 合計 | 52 | 1162 |

●今後の予定：引き続き丁寧な説明を行い、ご意見を伺う機会を持ちながら、「基本計画」の策定に進んでいきます。

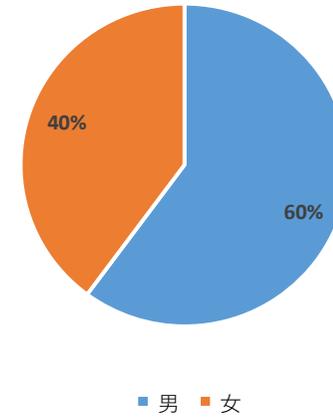


アンケート調査より

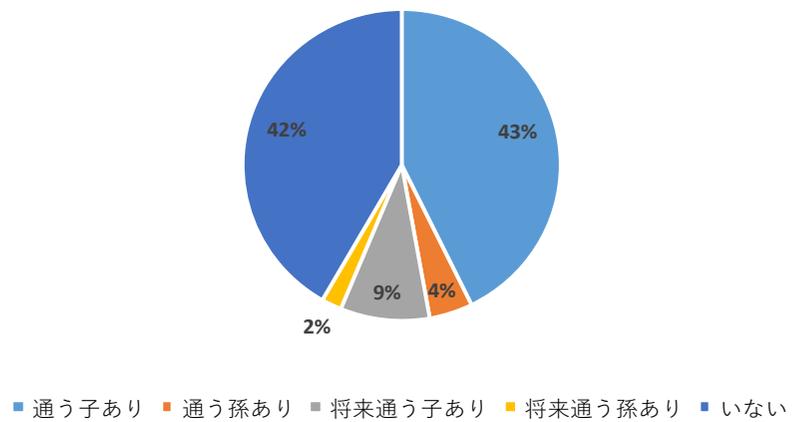
1. 参加者の年代



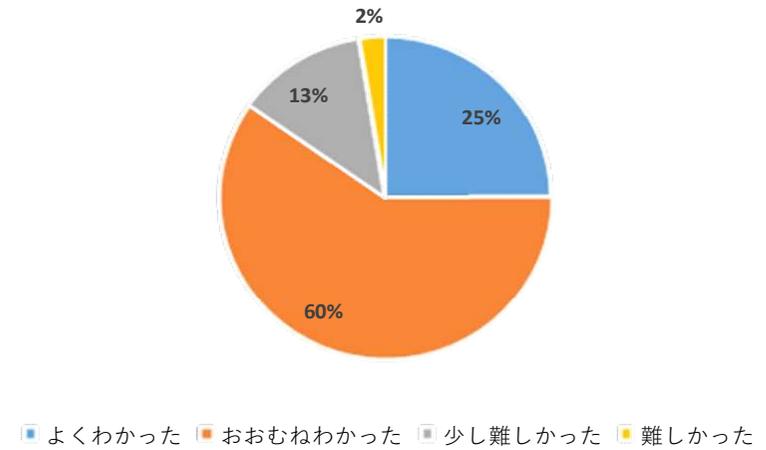
2. 参加者の性別



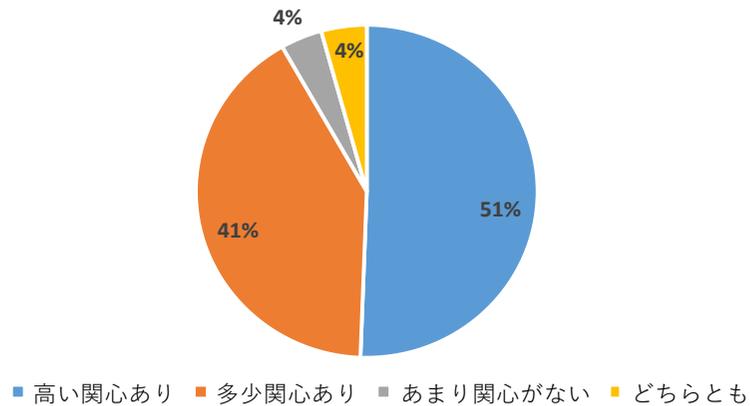
3. 家族に小中学校に通う子や孫がいるか



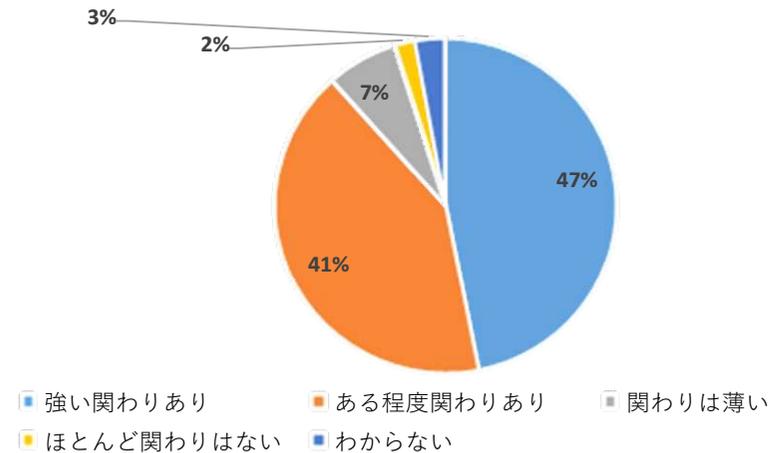
4. 説明会の内容について



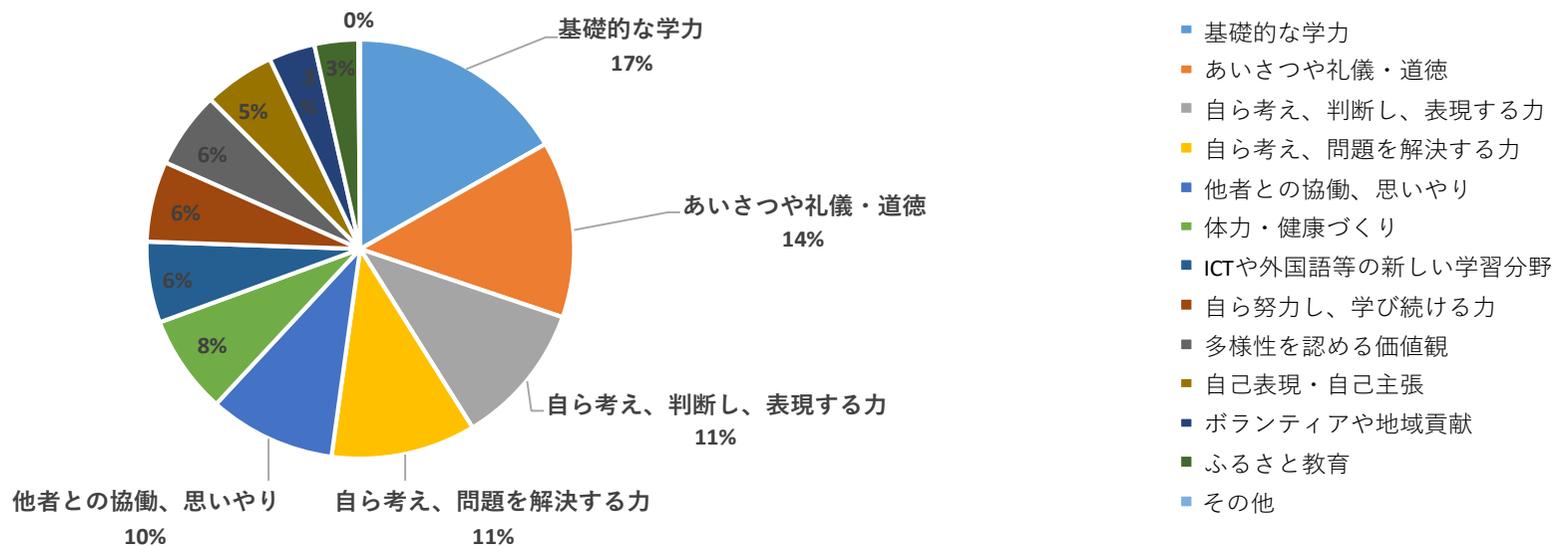
5. 学校教育や学校の適正配置への関心は？



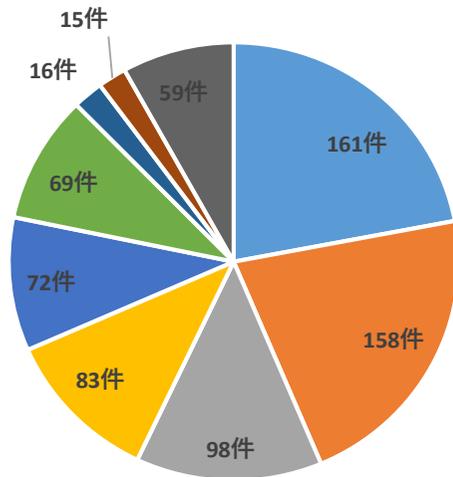
6. 地域と学校との関わりについて



7. 学校教育において、特に力を入れて欲しいこと、養って欲しい能力



8-1. 現在、学校等について感じていることは？（良いところ）

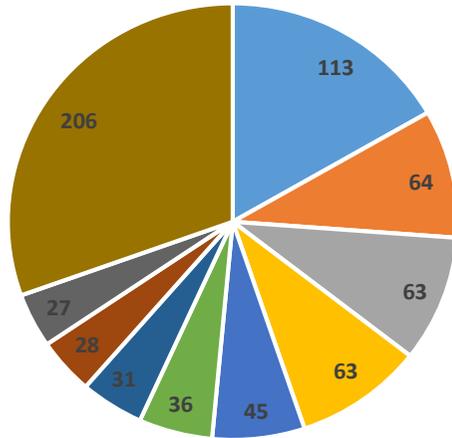


- ふるさと教育、地域とのふれあい、地域や家庭との強い連携
- 少人数で学年を超えたなじみの関係、安心感、のびのびとおおらか、仲がよい
- 少人数で一人一人の子どもに目が行き届く、きめ細やかな指導
- 素直、挨拶など基本的なことがきちんとしてできる
- 多人数による多くの出会い、子どもどうしの学びあい・切磋琢磨、行事等のダイナミックさ
- 小規模校で様々な行事で多くの体験・活躍ができ、責任感も養われる
- 中～大規模校で、学習面、友達との交流の面など、バランスが良いと感じている。
- 自然多く豊かな教育環境
- その他

【その他のご意見】

- ・ 元気、活力がある子どもたち
- ・ 通学が便利、安全である
- ・ 支援が必要な子にも手厚い
- ・ 自分の考えをきちんと言える、物怖じせず発言する
- ・ 自発的な学習活動をしている
- ・ 多数の活動の場がある
- ・ バスであれ、徒歩であれ、通学の経験が子どものためになっている
- ・ 人数が多く、気の合う友達や部活動を選べる
- ・ 中～大規模校で、先生と子どもの距離感が適当
- ・ 小規模校では一人が自由に使える学校備品が多い
- ・ 小規模校ならではの良さがたくさんある
- ・ 小規模校で友達一人一人と深い付き合いができる
- ・ 学校の施設環境が清潔、安全である
- ・ ICTを効果的に活用している
- ・ スポ少等の活動を通じて成長している
- など

8-2. 現在、学校等について感じていることは？（心配なところ）



- 人数が少なくなっていることで様々な不安、弊害を感じる（学校全体、同級生、男女別、地域内）
- 規模や経験の差から、少人数から多人数の集団に入った場合の対応やコミュニケーション能力に不安がある
- 少人数集団ゆえの人間関係の固定化、クラス替えがなく逃げ場がない
- 小人数では集団での行動が経験ににくい、社会性や、多様性を認める価値観を育みにくい
- 通学の安全性、距離などへの不安
- 人数が少なく、競争や切磋琢磨する環境にない
- 社会教育活動、地域との関わりの減少
- 小規模校では部活やスポ少の人数が少ない、選べない
- 学校教育の方向性や教職員のあり方についての疑問、不安
- その他

【その他のご意見】

- ・子どもがおとなしくパワーが感じられない、大事にされすぎている
- ・ICT教育やカリキュラム増への対応
- ・教職員の業務量は適正か
- ・施設の老朽化や修繕対応等の遅れ、設備などの不足
- ・友達と外遊びをする姿などが見られない
- ・不登校、いじめの心配
- ・大規模校では目が行き届きにくい、個別対応に不安、学校の状況もわかりにくい
- ・地域と保護者の考えの違い、若い世代が物を言いにくい
- ・放課後児童クラブがなく不便
- ・団体生活のルール、挨拶など基本的な生活習慣が身についているか
- ・現状が変わることへの不安
- ・メディアの使用やルール
- ・コロナによる制限や生活の変化
- ・自分の意見を言えない、指示待ち姿勢、自分で決断し行動できない
- ・家庭による差がある、家族の関わりの乏しい家庭がある
- ・学力面、学習意欲についての不安
- ・バス通は時間的、子どもの負担的に不利
- ・地域の人口減少、担い手育成や生まれた地域に住み続けるという価値観の醸成
- ・人が減り、PTA活動や地域支援も大変
- ・学校がなくなる不安、なくなってさびしい
- ・特別な支援や対応が必要な子への細やかなケア
- ・人数が多いがゆえの不安、弊害
- ・子どもには多くの大人が関わってほしい
- ・少人数で常に先生の目が届き、頑張りすぎる
- ・特色ある学校づくりを
- ・自己主張の強くない子どもは、今の教育に対応できているのか心配
- ・低学年のうちには少人数のほうがよい
- ・学校による差が大きい
- など

9-1. 学校教育活動以外に、学校が担っていると思う役割（学校・PTA回答）



9-2. 学校教育活動以外に、学校が担っていると思う役割（交流センター等回答）



～寄せられたご意見・ご質問～

| 区分 | ご意見・ご質問 | 現時点での考え方 |
|---|--|---|
| 全体的な考え方、見通しなど | <ul style="list-style-type: none"> ・適正配置の基準から外れた山間部の学校などは、統廃合となるのか。数字でなく、大切なのは教育の中身だと思う。 | <p>めまぐるしく変化する現在及び将来の社会において、子ども達に持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力を育むために教育環境を整える視点を大切に進めていきます。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・市教委の考えとしては、あくまで基本方針で定めた基準を重視するのか、地域の思いを聞く考えがあるのか。 | <p>主体的、協働的な学びを進めるためには、一定の規模は必要であると考えていますが、必ずしも統廃合に限らず、さまざまな視点から多角的・総合的に検討しています。また、画一的に基準を当てはめるものではないことは、基本方針の中でも確認しています。丁寧な説明を行い、地域のお考えを伺ってまいります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に小規模校を残す考えはあるのか。 | <p>学校の規模の点だけでなく、方針にある4つの視点で総合的に検討してまいります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校は手厚い指導をしてもらえ、逆に大規模であれば目が行き届かない部分も出てくるイメージ。大規模化が良いのか、疑問に感じる。 | <p>小規模校を否定するものではありません。安来市では、仮に再編を行っても、客観的には小規模と分類される学校が残ることになります。いずれにしても、規模それぞれに、良い点、不足する点がある中で、大人が見守りながら、子ども達がさまざまな学びや体験をし、自主性・主体性を育んでいくことが大切です。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校は良くないと言われているように聞こえる。 | <p>ただし、良い点より不足する点の方が目立つ状況となるほど、少人数化が進んでいる学校については、その存立について慎重な検討が必要であると考えます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・街部の大規模校には直接関係がないのでは。 | <p>規模の大小に関わらず、「学び」と「地域との連携」の視点に立って安来市の学校教育を考えていく必要があることから、市内全校を対象としています。</p> | |

| | | |
|-------------------------------------|---|--|
| 全体的な 考え方、 見通しな ど | <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多ければ、「誰かがやるだろう」という意識が芽生えがち。主体性、自主性は育ちにくいのでは。 | <p>小規模校において、子どもたちの活躍の場が多いことは特徴のひとつではありますが、そのことが即ち主体性を高めるとは考えておりません。</p> <p>学校現場で、学校規模に関わらず、今日子どもたちに不足していると感じているのが、「自主性」と「論理的思考力」です。現在の授業スタイルは、アウトプット型（能動的）に変化してきていますが、クラス内に一定の人数がいれば、必然的に多様な考えに触れ、自分も意見を発信しながら、友達と一緒に課題を解決しようとする事につながります。そのような学習スタイルを繰り返す中で、主体的に学びに向かう姿勢や、じっくり考えて課題を解決していく力が養われていくものと考えます。</p> |
| 全体的な 考え方、 見通しな ど | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校は自分がやらないといけないという環境になるので、主体性は育ちやすいように感じるがいかかがか。 | <p>財政状況に関わらず、子ども達にとって最適な教育環境を考えるために必要な検討であると考えています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・財政理由からの適正配置検討なのか。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・統廃合で学校数が減少すれば、その分の予算を余った学校に回せるようになるのか。 | <p>学校の運営に標準的に必要な経費は、国からの地方交付税により概ね賅われている状況であり、学校数が減れば交付税も減となります。従って、単純に再編後の学校への予算配分が増えるということにはなりにくい面があります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・適正配置検討の結果小規模校を残す場合、どのような考え方のもとに、支援やサポートをしてもらえるのか。 | <p>小規模校の利点が最大限生かせるように検討してまいります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・旧安来、広瀬、伯太の区域を超えた再編や、校区の見直しはあるのか。 | <p>さまざまな視点から検討していく考えです。</p> |

| | | |
|-----------------------------|--|--|
| <p>全体的な考え方、見通しなど</p> | <p>・検討の結果統廃合などが行われる場合、どのようなスケジュールを想定しているのか。</p> | <p>令和5年8月頃に適正配置審議会からの答申を受け、令和5年11月頃には、各学校の今後の方向性を示す「基本計画」を策定する予定です。その後、学校施設の整備の方向性や詳細について、より個別具体的な内容を定める「実施計画」の検討を速やかに進めてまいります。</p> <p>実施計画策定から開校までには、施設の整備手法によりますが、5年から10年程度を要するものと見込んでいます。</p> |
| <p>学習</p> | <p>・複式学級と単式学級で、学力に差は生じるのか。複式学級ではどのように指導をしているのか、学習において不利な点はないのか。</p> | <p>複式学級の授業は、1時間のうちに、一方の学年は教員が指導し、もう一方の学年は子ども達を中心となって学習を進めることを、交互に繰り返しながら実施します。現状において、学力学習状況調査からは、複式学級、単式学級を理由とする差は認められません。ただし、人数が固定化しているために、多様な考えを引き出しにくいという面があります。</p> |
| | <p>・安来市の目指す教育については学校の規模に関係なく実施できるのではないか。特に、ICTを活用すれば、複数校が一緒に勉強して協働的な学習の経験ができるし、教員の負担軽減にも繋がる。</p> | <p>学校教育におけるICT活用には大きな可能性があり、現在も小規模校において、多様な考え方に触れる機会として、ICTを活用した複数校の児童同士による共働的な学習の取り組みが行われています。</p> <p>ただし、その際教員はそれぞれの教室で同席してサポートを行う必要があり、また、事前の打ち合わせや準備等も考え合わせると、現時点では教員の大きな負担軽減に繋がっているとは言いがたい状況です。何より、子ども同士の対面でのふれあいや、日々の共同生活を共にする経験から得られるものもあり、ICTで教育現場の課題の全てを解決できるものではないと考えます。</p> |

| | | |
|----|---|--|
| 学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・統合することによって説明にあったような教育方針や目標がそのとおりに達成されるのか疑問。 | <p>将来子どもたちは、身につけた知識を自分で使いこなしながら、多様な社会との関わりの中で、柔軟に課題を解決していく力を求められることとなります。そのため学校教育においても、知識の習得だけを目的とすることなく、その過程、理解に至る道筋を重視しています。友達の様々な意見に触れ、皆で話し合うことは、理解の質を高めると同時に、自ら積極的に答えを探求しようとする姿勢を養うことにつながります。</p> <p>望ましい学習環境を考える上では、他者とともに学ぶことができる人数規模の確保は、重要な要素の一つであると考えています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・人数が少ないと主体的な学びが出来なくて将来に影響し困ることがあるのか。 | <p>児童生徒数の見込みを立てて、計画的に必要な学校施設の整備や教員配置を行っていく必要があることから、公立学校においては、住んでいる地域の学校に通う校区制を基本としています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自由に学校を選択できるようにならないのか。それぞれの学校の魅力アップにも繋がるのではないか。 | <p>本市のふるさと教育は安来の様々な教育資源「ひと・もの・こと」を活用した教育活動と捉えています。主な目的として「ふるさと安来への愛着や誇りを高めること」、さらには「ふるさと安来への貢献意欲、実践力を高めていくこと」を目指しています。市内の全小中学校において、全ての学年で実施されています。</p> <p>実際のふるさと教育の場面では、安来節に代表される伝統芸能、梨やどじょう、チューリップなどの特産物や観光資源、月山や鉄づくりといった歴史や文化、中海や流入河川に見られる豊かな自然環境など、安来の様々な教育資源を活用して各校の実情に合わせた特色あふれるふるさと教育を推進しています。</p> <p>さらに、和鋼博物館やプロテリアル安来工場の見学、加納美術館での平和学習など、安来の企業や施設とも連携して子どもたちの学びを支える環境づくりも大切にしています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・安来のふるさと教育とは。 | <p>児童生徒数の見込みを立てて、計画的に必要な学校施設の整備や教員配置を行っていく必要があることから、公立学校においては、住んでいる地域の学校に通う校区制を基本としています。</p> |

| | | |
|---------|---|--|
| 学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観で感じたのは授業中に生徒同士のやりとりが非常に多いことだった。活発な授業でいいと思ったが、自席に着くように指示があってもそのまま話し続けたり、着席できない生徒もいた。子どもの道徳心やモラルが低下したのではないか。 | <p>ICT機器を利用したり、グループで話し合う時間を設けるなど、授業の形は従前とは大きく変わってきています。静かに講義を聞いたり、集中して考える時間との切替が難しい場面もありますが、教職員は、時には毅然とした態度で指導をしながら、集団生活においてルールを重んじることの理解を促しています。</p> <p>子どもたちは、教育のみならず社会との多様な関わりの中から、きまりや節度を守り、礼儀正しく他者と接する術を身につけていきます。今後も学校、家庭、地域の連携のもとに子どもたちの規範意識の醸成を図ってまいります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学力状況調査について、家庭教育との関係性についてはいかがか。 | <p>学力状況調査と家庭学習の間に客観的な因果関係があることは確認できておりません。しかし、島根県全体の傾向として、他県と比較し、家庭学習の時間が短いという調査結果があり、安来市においても、効果的な家庭学習の進め方については重点的な課題として取り組んでいます。</p> |
| 地域との関わり | <ul style="list-style-type: none"> ・学校が統廃合された場合、学校と地域との交流はどうなってしまうのか。地域としても子どもたちや学校に関わっていきたい思いがある。 | <p>校区が広域化することとなっても、学校運営協議会等を通じて地域の方々にも学校運営に関わっていただき、学校と地域が一体となって子どもたちを育てていくことができる体制を整えてまいります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・多人数がいいということばかりで進めるのではなく、田舎でもいろいろなことができ、いいところがたくさんあることをわかってもらわないといけないと思う。将来地元での暮らしを選んでくれる子がいなくなる。 | <p>また、地域の方々のご協力を得て校外学習をしたり、地域行事に参加する機会を大切に、子どもたちが生まれ育ったまちに誇りと愛着をもてるよう、そして、多様な価値観のもとに、多様な生き方があることを理解できるよう、ふるさと教育を進めてまいります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会とは？ | <p>現在の学校評議員制度を発展させ、地域の多様な団体等が外部から参画し、校長の示す学校運営の方針などを承認していただくものです。学校と地域が目標を共有することで、子どもとの交流や学校支援が、より質の高い協働活動となることが期待されます。</p> |

| | | |
|---------------------|--|--|
| 地域との 関わり | <p>・校区を広げ、既存の学校をなくすことは、定住促進や活力ある地域づくりに逆行し、むしろ人口減少に拍車がかかるのではないか。</p> | <p>平成15年以降、約20年の間に、児童生徒数は約3割減少してきており、同級生が極端に少ないという状況が、他校区への転居の一因になっていることを危惧しています。今後も少子高齢化が進展していくと予想される中、この検討は、未来を担う子どもたちに必要な力が身につくよう「教育」の視点に立ち、子どもたちにとってより良い教育環境を整えることを目的としています。</p> <p>一方で、学校が地域の核となっていることも事実です。学校の適正配置と地域づくりは連動して進めてまいります。持続可能な地域づくりについては、「交流センターを核とした地域づくりのあり方検討委員会」において一定の方向性が示されたところであり、今後はこれに沿って地域住民、交流センター、行政が相互に連携しながら、検討・実践していく必要があると考えています。</p> |
| | <p>・地域から学校がなくなることの弊害をどのように考えるか。</p> | <p>（この行の右側の内容は、上記の行と重複するため省略されています）</p> |
| | <p>・学校の適正配置問題の前に、まずは人口対策、少子化対策が先ではないのか。</p> | <p>安来市では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、子育て支援、雇用創出、住環境向上、魅力的な地域形成の4つの基本目標に沿って、市の様々な業務分野が相互に関連しながら総合的に人口対策を推進しています。学校適正配置の検討は、これと並行し、子ども達にとって望ましい教育環境を整え、地域の将来を担うひとづくりを目指すものです。ハード整備に関しても、地域の一拠点として、長期的なまちづくりの視点を持ちつつ検討していく考えです。</p> <p>一体的な子どもの教育に関しては、保幼から高校までの各接続期や発達段階を意識し、関係機関の連携のもと、様々な学習活動、共同事業を実施しています。また、市内にある2高校の高校魅力化コンソーシアムにおいては、市や地元企業等多様な団体と学校が協働体制を構築し、小中と高校を繋ぐ活動や、高校の特性を生かした部活動やICT活用教育により連携する中で、地域創生の取り組みが行われています。</p> |
| | <p>・小中学校のことだけでなく、保幼～小～中～高と子どもの教育を一体的に考え、さらには、若い世代の地元への定着・還流を目指した雇用対策や、地域づくりと連携した施設整備など、安来市全体の政策ビジョンと関連付けて検討されるべきだ。</p> | <p>（この行の右側の内容は、上記の行と重複するため省略されています）</p> |

| | | |
|-------------|---|---|
| 地域との 関わり | <ul style="list-style-type: none"> 市として移住をしてもらう特典や人口が流失しないようにする取組などを行っていないのか。 | <p>市では、住宅支援、新規就農などを含む就労支援、専門スタッフが相談から移住後までの継続的なサポートを行う定住サポートセンターの設置、地域おこし協力隊の積極的な受け入れなど、UIターンを促進するための様々な施策を幅広く展開しています。</p> <p>また、次世代を担う人材の育成と若者の定着促進を図る観点から、市内にある2高校の魅力化推進事業、島根県立大学との協働事業、高校生を対象とする下宿支援事業、大学生をターゲットとした就職サポートのための情報発信事業などを実施し、次の世代に繋げる、持続可能なまちづくりを推進しています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域づくりのあり方について「伴走型支援体制」とは。また「財政的支援」とは何か。 | <p>伴走型支援とは、地域の課題解決に向けた取り組みの主体者は地域住民の方々であるという基本的な考えに立ちながらも、行政が側面から継続的に関与し、責任をもって支援していくことを指します。</p> <p>財政的支援の例としては、地域運営組織立ち上げのための補助や、地域課題解決のための事業への補助等、積極的に取り組む地域への支援を考えています。</p> |
| 施設 | <ul style="list-style-type: none"> 施設が老朽化している、建て替えなどの考え方は。 | <p>学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な施設修繕等を行っていますが、追いついていない状況です。学校の適正配置検討の間は大規模改修は行わず、部分的な改修で対応することとしています。</p> <p>全ての小中学校について対策済みであり、耐震性能には問題はありません。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> 施設の修繕や環境整備が不十分に感じる。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 古い施設が多いが、耐震性はどうか。 | |
| 通学 | <ul style="list-style-type: none"> 遠距離通学となった場合の交通手段は。 | <p>通学に係る負担については、検討にあたって、非常に重要な視点の一つであると考えています。また、遠距離通学となる場合には、交通手段の確保と支援策も検討することとしています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> 基準に通学時間60分とあるが、自宅からバス停までの移動の問題もあり、特に低学年にとっては長すぎるのではないか。 | |

| | | |
|-----|--|---|
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の負担が大きく、余裕をもって子どもに接することができないように思う。教職員の配置はどのように決まるのか。 | <p>教職員は、法令を基準として定数配置が定められており、学校規模に応じた適切な配置がなされています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校などが増えていると聞く。多人数になったらさらに増えるのではないか。また学校規模で対応に差があるのではないか。 | <p>いじめの認知件数や不登校数の増加の原因については、学校規模との関係はありません。規模に関わらず、きめ細やかな対応を行っています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・現状も、中学校でいきなり多人数の学校に通うことになるケースも多く、うまくなじめないまま、不登校になってしまう生徒もいるようだ。 | <p>「中一ギャップ」の解消のため、校区における小中連携を図りながら、魅力ある学校づくりを進めています。また、早い段階から良好な関係づくりができるよう、同じ校区内の小学校が集まり、同学年の児童同士の交流にも取り組んでいます。</p> <p>不登校の要因はさまざまありますが、個別の事情に応じて、学校、保護者、関係機関と連携して対応しています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・大規模校でも、特別な支援が必要な子にきめ細やかな対応してもらえるのか。 | <p>学校の規模に関わらず、支援が必要な児童生徒に対しては、個別の特性に配慮しながらきめ細やかな指導、支援を行っています。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校のメリット、デメリットとは。 | <p>良い点としては、一貫した教育方針のもとに小中連携が図られ、特色ある教育を受けられること、小学校から中学校へスムーズに移行できること、幅広い年齢間での交流が図られること、技能教科の教員が小学校から指導できることなどがあります。</p> <p>課題点としては、小中での区切りがないがゆえに気持ちや生活の切替の機会がないこと、小中の組織文化・習慣の違いが大きく、教職員間でその調整に時間や手間がかかること、学校全体の人数が増えたとしても、各学年の人数が少なければクラス替えはできず、固定した人間関係が9年間続くこと、等があります。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・統廃合があった場合、跡地利用などについての考え方は。 | <p>跡地の有効活用については、地域と協議しながら進めていく考えです。</p> |

| | | |
|------------|----------------------------|---|
| その他 | ・小学校適正配置はそもそも都市計画の一部ではないか。 | 教育委員会として子ども達のよりよい教育環境を考えるに際し、まずは教育の視点を最優先に置いて検討を開始しています。今後、方向性が定まり、学校の立地等の個別具体的な検討を視野に入れるべき段階に進めば、都市計画等を踏まえたハード面についての部署横断的な調整も、当然に必要となるものと考えます。 |
|------------|----------------------------|---|

～その他のご意見～

●全般について

- ・地域から学校がなくなり、子どもの姿が消えることは寂しい。なくさないでほしいと思ってしまう。
- ・今後地域の人口や子供の数が増えることは望みにくい。今はまだよいとしても、先送りにできない段階にきたんだと感じた。
- ・人数が少なくとも安定している学校がある一方で、大きな学校でも人数が減っており驚いた。将来が不安。
- ・少子高齢化は急激に進んでいる。当事者の子どものためには、早く結論を出すべきだと思う。
- ・子供の数の減少は、学校を支える親の数の減少でもある。PTA活動などにも限界を感じている。
- ・昨今ニートやいじめの問題などもある。学校生活の多様な関わりの中で周囲と協調し、社会で生きていく術を学んでほしい。
- ・子どもが大きくなったときに、いろいろな意見を持った子に育ててほしい。そう思うと一定の人数が必要かと思う。
- ・子どもの数や学校の状況についてあまり知らず、危機感がなかった。これから考えていきたい。
- ・自分で考え、表現し、友達と考えながら課題を解決していく「アウトプット型学習」の実践には一定の人数規模が必要だ。
- ・自身の子どもの頃とは、学校の勉強の様子や、子どもに身につけさせるべき力についての考え方も変わっており、そのような学習ができる環境を作らなければならないのだとわかった。
- ・子ども達や、若い世代の意見を聞くべきである。
- ・教育の充実が図られ、地域住民との関わりなどの質が改善・向上すれば、配置がどのように変化してもよいと思う。
- ・非常に残念だが、現状の人数や施設の状況からは、学校がなくなるのはやむを得ないと思う。
- ・時代の流れに沿った適正化を進めてもらいたい。
- ・子供の数は今後も減少する。かなり先を見据えて議論をしておかないと、せっかく決めても、すぐに次の対応が必要になると思う。
- ・子育て支援そのものへの不安があると思う。子ども園や放課後児童クラブのことも併せて検討してほしい。
- ・行政が一方向的に決定するのではなく、今後も説明会を重ね、地域と丁寧に協議し、最後まで寄り添った決め方をしてほしい。

●学校の規模について

- ・小規模校では、常に注目され、主役にならなければならない。負担を感じる子もいる。

- ・小規模校では、複式と単式を繰り返す学年があり、子どもにとっても先生にとっても大変だと思う。
- ・小規模校では、人数が少ないことでできない活動もあり、経験の差も生まれる。適切な教育環境といえるのか。
- ・小規模校で、同級生がいない、男女差に大きな偏りがある等の極端な環境は、やはりかわいそうだと思う。
- ・小規模校では、多様な考えに触れ、時に競い合いながら切磋琢磨する環境となりにくい。
- ・小規模校では、仲良くなれても競争はできない。今の時代それでいいのか。
- ・小規模校では、人間関係が固定化しがちである。人間関係に躓いたときに逃げ場がない。クラス替えができる人数は必要。
- ・小規模校では、部活動やスポ少の選択肢が少ない、人数が足りず試合に参加できない、文化部の種類が少ないなどの点は残念だ。
- ・小規模校から、中学、高校に進んだとき、環境変化にうまくなじめないケースもあると思う。
- ・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学した。初めから人数が多い学校で学びたかったと思った。
- ・小学校でもクラス替えのできる人数規模だといいと思う。
- ・最低でも複式学級にならない程度の人数は必要だと思う。
- ・人数が全てではないと言うものの、あまりに少なくは、学校教育としてどうなのか。
- ・子どもには人数の多い学校で教育を受けさせたい。
- ・手厚い教育が受けられることはありがたいが、教職員不足の中で、小規模校に多数の先生を配置してもらっている現状に疑問も感じる。
- ・教員の立場からは、ある程度の人数規模は必要だと感じる。
- ・子どもには田舎の良さもわかってほしいので、住環境としてはよいが、教育環境としては人数が多い方がよいと思う。
- ・子どもは、もっと友達がほしいと言っている。
- ・学習面は少人数でも何とか対応策もあるかもしれないが、スポーツや部活動については少ないままではどうすることもできない。
- ・部活動は地域移行の話をしている。学校の枠組がなくなれば、可能性が広がる。並行して進めてほしい。
- ・現状の小規模校の教育に不満はないので、統合となると残念に思うが、頑なに反対するものでもない。
- ・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学したが、特に困ることはなかった。小規模校での経験に十分満足している。
- ・小規模校では、皆に多くの活躍の場があり、積極性や主体性が育まれる。大場でもしっかりと自分の意見を発言できる。
- ・小規模校では、学年を超えた学校としての一体感の中で、皆が仲良く、思いやりを持って過ごすことができる。
- ・小規模校では、地域との繋がりが深く、特色あるふるさと学習などが行われている。学校、地域、双方にとって良い関係が構築されている。
- ・小規模校では、親同士のつながりも深く、学校の活動にも協力的である。
- ・小規模校で、少人数での丁寧な指導を希望する。

- ・仮に統合することになっても、小規模校の良い面が残ることを願う。子どもの活躍場がたくさんあること、一人一人の子どもの良いところを見つけてもらえること、十分な教員が配置され、手厚い教育が受けられることなど。
- ・1クラスの人数を少なくして、指導が行き届くようにしてはどうか。
- ・小学校の1クラスの人数下限の10人と、その根拠である3人×3グループという説明に納得感があった。
- ・小学校の1クラスの人数下限の10人以下というのは必要だと思うが、それ以上での合併は不要だと思う。

●学校と地域について

- ・市街地と中山間地域の違い、また各地域の個別の事情を踏まえ、住民の意見をよく聞いて進めてほしい。
- ・過去の統廃合で学校やこども園がない地域では、やはり地域と子ども、学校との繋がりは薄い。もう一段統廃合が進むと、現在のわずかな関係もなくなってしまうのではないか。
- ・学校がなくなれば若い世代は地元に住まなくなることが予想される。地域の未来に大きな影響を与える覚悟をもって決定する必要がある。
- ・地域との繋がりが子ども達の心情面を育み、地元への愛着に繋がっていると思うので、慎重に検討してほしい。
- ・見守りなど、地域活動の目的が学校にあり、自然に人が集まり、それが地域の活力になっているという実態は確かにあると思う。
- ・学校のことも地域のことも、もっと早く議論し、対策するべきであった。
- ・小規模校ならではの良さもある。地域として小規模校で子どもを育てていくことも、積極的に選ぶべき選択肢の一つであると思う。
- ・小規模校をなくすだけでは、市街地への人口集中を加速するばかり。各地域の将来像や人口対策なども併せて考える必要がある。
- ・街部に人が流れ出て行くような方向ではなく、山間部にも拠点を作り、これを育て、守るような方向性が必要だ。
- ・学校の歴史や伝統、地域の思いなどは理解できるが、未来を見て、子どもたちのためになる学校教育の在り方を考えるべきだ。
- ・大規模校を求めて出ていく人がいる一方、中山間地の豊かな自然環境での子育てを求める人もいる。地域の人も自ら努力して、地域そのものの魅力づくり、地域づくりをしていくことも重要だと思う。
- ・地域の熱意で小規模校を残したとしても、そこに住む若い世代の保護者や子どもがその学校を選ばない結果となることを危惧する。子どもファーストで議論を進め、よい教育環境を作してほしい。
- ・学校教育と社会教育を合わせて検討しなければならない。
- ・学校がなくなった場合、跡地活用も含め、限界集落でどう地域づくりをしていくかも重要な論点だと思う。
- ・何を、誰を中心に考えるか、目標と目的を見失うことなく対応してほしい。

- ・地域振興に学校を使ってはならない。小さな学校が地元に残ったからといって、それだけで今後地域が栄え、人が増えるわけではない。
- ・ビジョンのような学校と地域の関係ができれば素晴らしいと思うが、世代間のギャップ、後継者や地域リーダーの不在、役職の固定化、住民の無関心など、交流センター等を中心とした現状の地域活動じたいにも課題が多い中で、難しい面もあると思う。
- ・ボランティア活動などを通じて、個人主義ばかりでなく、子どもの頃から皆のため、という考え方を養ってほしい。地域活動への若い世代への参画が少ないことが大きな課題である。
- ・子ども達が将来安来で子育てをしたいと思える地域になるよう、現状に停滞することなく、大人が常に良い方法を探し求め続けるような雰囲気が必要。常に最善でなくとも、皆の意見が反映され、変化があると感じられる地域であってほしい。
- ・地域に若い人が少なく、少子化が進む原因は、旧態依然の枠組み、固定観念、悪い意味での古い価値観等にあると思う。もっと若い世代が気軽に入っていける地域であってほしい。
- ・いずれ校区が広がり、複数の地域をまたいで学校が存立するようになっていく中で、よいふるさと教育をしていくためには、地域の力が試されると思う。即ち、子どもたちに誇るべき地域資源を守りながら、魅力あるまちづくりをしていくこと。そうしないと、地域としての個性も薄れてしまう。
- ・自分の住む地域の良さを知るとともに、将来の地域づくりのために、子どもたちのための良い教育環境づくりが大切であることを理解される機会になるとよい。
- ・地域づくりには工夫と財源が必要。例えば中山間地域の交付金のソフトメニューで、子ども達の環境教育の視点を織り交ぜた活用を考えるなど、地域振興・環境保全・世代間交流といった複合的な効果が期待できる事業ができればよいと思う。
- ・学校がどうあれ、24館の交流センターは存続されるとのことで、ひとまず安心した。今後ますます交流センターが地域の要になると思う。
- ・子どもの減少も心配だが、地域人口の減少も深刻。自治会や地域を維持できるかというときに、子どもや学校を支えられるのか。
- ・学校がないと地域が寂しくなるという不安もわかるし、学校に子どもが少ないのもよくない、それでもどちらかを取るなら、子どもに多人数で学ばせる方がよいと思う。集団教育の機会を奪い、子どもが犠牲になるのはよくない。
- ・統合に反対するものではないが、学校がなくなる地域へのフォローをしっかりとしてほしいし、その枠組みを示してほしい。
- ・学校を残すためにどうすればいいのか、地域として考えたい。
- ・過去に学校の統廃合を経験。学校がなくなると地域が疲弊すると聞くと、そのような感覚はあまりない。
- ・過去に学校の統廃合を経験。危機感を持って、地域として、何とか人を呼び込むことを考えている。
- ・地域づくりを積極的に推進し、一定の成果も出ている地域だと自負している。行政もその取り組みを認め、学校を残してほしい。
- ・統合はしたくないが、人数が増えないと、当の子どもたちが今後苦しい思いをすることもあるかもしれない。地域として真剣に定住対策に取り組

んでいけないといけない。

- ・誰が地域を守っていくのか。家を継ぐというような発想は古いとしても、自然と地域に若い人が住んで、世代や地域が繋がっていくような環境づくりをしなければならないと思う。
- ・上流から下流へという話になりがちであるが、下流から上流へと考え、中山間地域に一貫校を作るのもよいのではないか。
- ・学校側もカリキュラムの増などで、地域との関わりを減らさざるを得ない事情もあると聞くので、そのような中でどのように関わっていくかが課題である。

●その他のご意見・ご感想

- ・小中一貫校や義務教育学校を導入してほしい。
- ・旧伯太町は地域のまとまりから、場所はともかく、小学校が一つになるというのはいりうらと思っていて。
- ・子どもの人数や部活動のことなどをふまえると、伯太中と二中の統合も検討してもよいのではと思う。
- ・旧広瀬町は面積が広い。人数が少なくとも、通学距離を考えると統合は困難。
- ・旧広瀬町は、すでに中学校も統合されており、小学校も一つにならざるを得ないのかなと思う。
- ・広瀬と伯太はそれぞれ中学校はあった方がよいと思うが、小学校は難しい。
- ・低学年の通学の負担軽減のために、分校制度はどうか。
- ・能義平野に並ぶ能義、南、宇賀荘の小学校については、統合されるイメージ。二中との一貫校もよいのではないか。
- ・宇賀荘、宇波など、学校区と、交流センター区や地域区分に不一致がある地域があり、弊害がある。
- ・統合することになっても、新しい学校の立地は慎重に検討してほしい。
- ・小中学校と同様に高校生も減っており、高校は市内に1校でもよいのではないか。空いた施設に中学校や一貫校を置くことは、施設整備コストの面からもメリットがある。
- ・赤江小は旧来より一中と三中に分かれるが、地理的な合理性もあり、あまり違和感を感じない。
- ・赤江小について、一中と三中に別れる現状がかわいそう。心の負担が大きい。
- ・統合することにより放課後児童クラブも利用できるようになると思うので、便利になる。
- ・地域との関わりなど考えるべきこともあるが、旧市町のまとまりにこだわりすぎなくてもよいと思う。
- ・市街地の学校に人数が集中しており、学びの環境に差ができています。大規模校でも校区の見直しなどを検討すべき。

- ・中学校の生徒数のアンバランス、一中への一極集中はよくない。
- ・通学手段がきちんと確保されていれば、他校との合併や、よその地域の学校に通うことにあまり抵抗は感じない。
- ・通学のこともあり、小学校は現状のままでよいが、中学校は検討が必要だと感じる。
- ・通学の負担に配慮すべき。特に小学校低学年にとっては、負担が大きすぎると、学びに向かう意欲すらなくなる。
- ・バスで長時間の通学となると、小学校低学年はトイレの心配もあるのでは。
- ・バス通学は、統合したときは無料でも、やがて受益者負担になると聞かすが、そうならないようにしてほしい。
- ・適正な学校の規模、数とすることで、学校施設の維持管理もしやすくなり、子どもたちがよりよい環境で学習できる。
- ・現行バス通学をしているが、待ち時間や運行時刻のことなど不便も多い。不利益がないよう配慮してほしい。
- ・大人が思う人数変化や通学の負担と、子どもが実際に感じる負担は異なると思う。
- ・多人数での関わりを経験させる意味でも、将来的な統廃合を見据える意味でも、学校間の交流が一層進むとよい。
- ・将来でなく、現状すでに、子どもの学びや活動の機会が制限されていたり、施設環境面で不利益が生じたりしていることに配慮してほしい。
- ・教育にも多様性を認め、地域の魅力も生かした様々な特色のある教育を進めてほしい。また、校区外や他市からの転入を受け入れることも含め、特色のある学校を選択できるとよい。
- ・子どもの安全や、災害時の迎えのことなどを考えると、単純に学校は近くにあった方がよい。
- ・学校区を考えて土地や家を求めるといふ大きな選択をした家庭もあると思う。校区の線引きを変えるのは慎重な検討が必要だ。
- ・農地法や開発上の規制で、若い人が実家近くに家を建てられない地域もある。少子化の根底にある課題への取り組みが必要だ。
- ・地域の今後を考えるに当たっては、内部だけでなく、外部（民間）の力を入れて、雇用や人の流れを創出する取り組みが必要だ。
- ・アウトプット型学習が推進されているとのことだが、社会に出てから、職場や地域で自分の意見を述べ、建設的な議論をすることはとても重要。子どもの頃からその力を伸ばしてほしい。
- ・ICT活用で簡単に情報が手に入るようになり、子どもがわからないことを自分の手で調べるということをしない。また、答えをそのまま受け止め、疑問をさらに探求したりする姿勢も薄い。総じて受身な印象。主体的になるような教育は重要だと思う。
- ・子どもたちには、別れと出会いを経て、新しい場所で新たな人間関係を築いていくという経験も必要。必ず多人数で一緒にしなければならないというものでもない。
- ・子ども達は、多人数、多様な価値観の中で過ごさせる、ただし、馴染みにくいとか、つまづきがかあった子に対しては、十分なフォローができる体制があるというのがよい。
- ・これからますます地域の力が大切になってくる。交流センターの担当部署だけでなく、全庁連携的に地域支援をすべきである。また、市職員が、

その経験などを生かしながら、できるだけ地元の活動に関われるとよいと思う。

- ・学校の議論を契機として、地域が危機的状況にあることを住民皆に理解し、ともに考え、行動してほしい。
- ・統廃合による、子どもや地域への弊害を洗い出し、対策を検討する必要がある。統廃合の後のフォローも重要である。
- ・住民皆に感心を持って、考えてほしいと思った。説明会で話を聞いたり、意見交換ができてよかった。